



きよくり news

CONTENTS

- ・年頭のご挨拶
- ・今の私と
リプロネットみやぎの活動



Muraguchi Kiyo Women's Clinic



新年あけましておめでとうございます

本年もどうぞよろしく願いいたします

昨年は、これが国会内？信じがたいドタバタ騒ぎの中で「安保法案」が国会を通過した年でした。診療活動に忙殺されながらも、その後ずっと気持ちの中でくすぶり続けてきました。

「安保法案」の反対運動が日々拡大し、テレビ、新聞・・・で報道され、日本中の「空気が動く、変わった」と確信でき、勇気づけられた。新顔・学生団体「SEALDs」の登場に、大きな希望と期待が膨らんだ。彼らの勇気に引っ張られ、高校生の T-ins sowl、ミドル世代による MIDDLEs、高

齢世代による OLDs などできたとのことでした。ママの会、学者たちの会も・・・。

「主権在民、憲法に保障されてきた民主主義の精神」は今とても危うい状況にある。民主主義とは？当たり前と思ってきた、立ち止まって考えたことがなかった。吉野作造記念館（大崎市）戦後 70 周年企画展～井上ひさしと戦後日本の平和～河北新報の案内記事が目にとまり、出かけてみた。

戦後復興に成功し、高度経済成長に邁進する日本社会、実際にはさまざまな矛盾や理不尽が起こっていた。井上ひさしは東北の一寒村が日本国から独立する『吉里吉里人』を発表し、普通の人々の立場から意義を申し立てた。戦争や平和、民主主義の問題に取り組み、やがて吉野作造に出会った。大正デモクラシーの指導者として知られる吉野作造はキリスト者・政治学者として社会の隅っこに追いやられた人々のために活動した。その弟、作次は商工省のエリート官僚として、恐慌にあえぐ日本経済を救うために産業政策に取り組んだ。イメージする国家や立場の違いをめぐり、兄弟の仲はすれ違い・・・、その兄弟を題材にした戯曲「兄おとうと」を創作した。作造に「国もおにぎりと同じ。なにを芯にして一つになるのか、そこが大切なんだよ。」「これまでみんな『人生ってそんなもんださ』と、なんも疑問も持たなかったが、最近がちがう。わが子のための石炭やシャツがないのはなぜ？・・・なぜ、なぜ、なぜ。さよう、人びとは「なぜ」と考えることによって政治に目覚めたのであります」と語られた。

戦前日本で人々の幸せな生活を実現しようとした吉野作造の主張は当時「民本主義」と言われ、第 2 次世界大戦後「国民主権」の憲法により大きく開花した。吉野作造と井上ひさし、いずれも民衆の幸せのために、民主主義の精神を軸足に生きた誠実・偉大な二人だった。そうした大先輩が身近にいたことを知った貴重な一日となった。

SEALDs の中心メンバー・奥田愛基さんが、法案を審議している参議院特別委員会の公聴会に出席し意見を述べ、最後に、「これから生きていく世界は、相対的貧困は 5 人に 1 人と言われる超格差社会です。親の世代のような経済成長もこれからは期待できないでしょう。今こそ政治の力が必要なのです。どうかこれ以上、政治に対して絶望してしまうような仕方、議事を運営するのはやめてください」「仮にこの法案が強行採決されるようになれば、全国各地でこれまで以上に声が上がるとでしょう。・・・次の選挙にも、もちろん影響するでしょう。」と述べた。人が行動し、経験し、心に宿った思い・炎は、決して消えて消えることがないでしょう。

戦後 70 年「民主主義」は日本社会にしっかり根付き、若い世代に引き継がれてきました。その力は困難があっても、必ず新しい時代を切り開いていくでしょう。今年は「さる年」、私にとって年女です。ずっと健康に恵まれ、小さなクリニックでもたくさんの方の事をやれてきたと思えることに感謝し、今年も頑張っていきたいと思えます。皆さまのご支援・ご鞭撻のほどをよろしくお願いいたします。

院長 村口 喜代

今の私と「リプロネットみやぎ」の活動

土井 豊 さん（東北生活文化大学教授・リプロネットみやぎ副代表）



リプロネットみやぎのトークサロン・学生たちの参加を得て

皆さま、新年明けましておめでとうございます。東北生活文化大学の土井でございます。

さて、もとより私は『きよくりNEWS』の愛読者であり、村口先生にお目に掛かれる会合にならいつでも喜んで出席したいと思っているような、或いはこれからも先生からご教授賜りたいと考えている、言わば“きよくり学園”の学生のようなものであります。

さて私が、縁あって現在の大学（以前は三島学園女子大学という名前）に赴任したのは、丁度今から30年前の昭和61(1986)

年4月の事。私の専門は、保健体育、学校保健、健康管理学といった、いわゆる毎日の生活に密着した科目です。宮城教育大学・順天堂大学大学院を通して、また大学教員になってからも、運動習慣と健康度（健康＋体力）との関わり、基礎的保健行動（健康習慣）と健康度との関わり、あるいは健康的痩身方法に関する実証的研究といった研究を行ってきました。ところが、今から10年ほど前の事になりますが、宮城教育大学教授だった数見隆生先生から「これからは『大学生の性意識・性行動に関する調査研究』と一緒にやらないか…」とのお誘いを受けたのです。自分から言うのも何ですが、もとより根が正直で素直な人間だったこともあり(?)、つい「面白そうですね…分かりました！」との一つ返事で協力のお約束をし、性に関する各種調査を開始した訳であります。そんなこんなで、私が村口先生と初めてお会いできたのも宮城教育大学の数見研究室でした。丁度、村口先生担当の『人間と性』という講義が終了した後の対面でした。

さて、性に関する調査を行ってみると面白く、「こんな興味深い結果なら、学会等で発表しようではないか…」といった意欲も出てくる仕舞いで、それ以降はほぼ毎年、全国学会に演題を申し込んで発表をしてきました。そんな中、平成22年の夏（8月下旬）の第29回日本思春期学会（於小樽市）では、幸運にも村口きよ先生グループと再会、また夜には数見先生と共に美味しい刺身とお酒をご馳走になりました。それからは、村口先生との距離は益々近くなり、結局【リプロネットみやぎ（村口先生が代表を務める市民活動団体）】にも入会し、気が付けば役員（副代表）を仰せつかる身になっていました。

今の私にできることは、【リプロネットみやぎ】で学び得たことを普通の講義等で男女学生たちに敷衍（ふえん）して話すことであり、また「【リプロネットみやぎ】ではこんな学習ができるんだよ！」と啓発することなどであると考えています。幸いなことに、今年度の『リプロ「女性の健康」連続講座』では、実に向学心旺盛な女子学生たち数人が受講しており、主催者側としても嬉しく思っているところです。

私自身、今後の男女が、『それぞれの‘からだ’と‘こころ’の違い』や『お互いの“性の健康”』などを真剣に学んでいくことは、必ずや「リプロダクティブ・ヘルスプロモーション」になるものと確信しています。何はともあれ、今後共に村口先生はじめ【リプロネットみやぎ】の役員諸氏にはお世話になります。

【臨時休診】

現在、臨時休診の予定はございません。



【編集後記】

みなさま、年末年始はいかがお過ごしでしたか。今年は国政選挙があり、この国の方向性が決まる大切な年ですね。明るい未来を思い描ける結果になることを心から祈っています。

